［SoyaLabo10 シンポジウム］ 概要（稚内開発建設部）

共に北海道の未来を創る 第9期北海道総合開発計画

◎日時：令和7年11月29日（土） 10：00～12：00

◎会場：豊富町　ふらっと★きた

◎参加者：会場80名　Zoom　130名

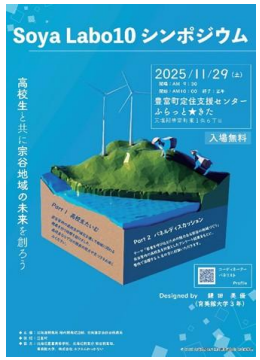
◎プログラム

01　プロローグ 「9期計画とこれまでの取組」

稚内開発建設部長　巖倉啓子

02　高校生たいむ

03　パネルディスカッション



01　プロローグ～9 期計画とこれまでの取組

《2050 年の北海道の将来像》

- 食・観光・脱炭素化等の北海道の強みを生かした産業を国内外に展開
- 定住・交流環境を維持し、国内外から人を呼ぶ多様な暮らしを実現

「宗谷地域づくり連携会議」及び**「SoyaLabo10 ミーティング」**において宗谷地域の課題を共有し、**「SoyaLabo10 シンポジウム」**で地域課題への取組状況や成果等を発信

SoyaLabo10（通称：ラボテン）……第9期北海道総合開発計画及び北海道総合計画の推進のため、稚内開発建設部と宗谷総合振興局が主体となり、SoyaLabo10 シンポジウム、SoyaLabo10 ミーティング、宗谷地域づくり連携会議の 3 つの取組を中心として、継続的に地域課題の解決に取り組むための官民連携のプラットフォーム。

02　高校生たいむ～探究学習の発表

① 豊富高校温泉班「温泉を活性化させるためには」

アトピー性皮膚炎に効果が見られる豊富温泉に若者を呼び込み、温泉街を活性化させるため、宿泊施設でインタビューとアンケートを実施。10～20代の客は少ないこと、二次交通の脆弱性や買い物施設の不足、広報が不十分などの現状を把握。バスの増便や買い物施設の改善等を提案した。

② 豊富高校まちづくり班「豊富町の特産品を知ってもらうために」

特産品を活かした祭りの開催を提案。アンケート調査では、屋台のメニューを多様化することが町の活性化につながることを把握。商工会へのインタビューでは、町内で栽培が始まったソバが新たな特産品になることを確認し、SNS での発信によって、若者を増やすことができる可能性を提案した。

③ 枝幸高校「鹿との共生～鹿と共に生きていくために必要なこと」

警察署と役場への聞き取り調査から、町内で鹿による被害が大きいことに着目。鹿よけ対策として、鉱塩を設置する方法や、天然忌避液を散布する方法、町民に鹿が嫌がる花を植えてもらうポスターの掲示、鹿が嫌いな赤色のものを設置するという 4 つの対策を今後の検討材料として役場に提出した。

④ 礼文高校「レプンモール～島の生活を快適に～」

「礼文島の課題を見つけ出し、より良い社会の実現を目指す」をテーマにショッピングモールの建設を検討。建築・サービス・広報の観点から計画を立案し、土地の確保や建設費用、店舗の選定、情報発信の方法やイベントなどのプランを作成。活動は次年度以降も継続するため、後輩の参加を呼び掛けている。

03　パネルディスカッション～若者を呼び込むための魅力ある宗谷の地域づくり

《コーディネーター》育英館大学副学長・教授　佐賀　孝博氏

宗谷地域の高校生のアンケートから、若者が地域に住み続けるためには、「町を選ぶ優先度を上げること」や「職業観や働き方への理解を深めること」、「同年代が集える場所をつくる」、「身近な大人が楽しく暮らしていること」などのポイントを提示。

パネリスト

① エビナマスジ氏（シンガーソングライター）
② 嶋崎　暁啓氏（自然ガイド）
③ 芳野　福一氏（酪農家・NPO 法人代表）
④ 鷲見　道子氏（三笠山展望閣管理人）

Round 1　高校生たいむ及びアンケート結果について

① 地域イベントの企画運営に興味がある高校生の意見を全体で共有して、地元に帰ってきたくなるようなイベントに参加する機会をつくりたい。

② 宗谷地域には日本を代表する唯一無二の自然があることを認識している点が意外であり、感心した。「ワクワクとよとみ未来会議」にも参加してほしい。

③ 過疎の集落にNPO法人を立ち上げ、高齢者の支援を行っているので、若い人たちの考えやアイデアを活かして、地域を活性化してもらいたい。

ミナといかん

④ 地元を愛するアイデンティティを持って、自分の中に「これだけは負けない」というものを軸に置いていってほしい。

Round 2　地域のために取り組みたいこと

① 宗谷管内10市町村の学生たちを巻き込んで、食・観光・教育と音楽を結び付けた音楽フェスを開催したい。

② 自然ガイドとして、地域の自然の魅力を紹介して、双方をつなぐ架け橋の役割を果たしていきたい。

③ 酪農や農業の素晴らしさをアピールして、地域のための助け合いの活動を若い人にも知ってもらいたい。

④ 子供である学生のうちに身近にある自然とたくさん遊んで、町を出た時にはその体験を伝えてほしい。